

立命館経済學

第十七卷 第一号

昭和四十三年四月

内 容

論 説

- A・スミス D・リカアドオ J・S ミルにおける租税
理論の展開(VI) 箕 浦 格 良 1
— 古典学派における財政思想 (15) —

研 究

- 近代経済学批判の目的と方法, そして近代経済学の性格
規定についての若干の考察 (その一) 小 野 進 29
— 関恒義著『現代資本主義と経済理論』の所説に関連して—
独占と恐慌 森 啓 子 51
— 自己回復力の喪失について—

資 料

- 中国における国家資本主義・賃金制度にかんする諸問
題 手 島 正 毅 71
— 往復書簡の抜粋—
自由民権期の村県会闘争 後 藤 靖 91
— 参事院法制局裁定書—

書 評

- 岡崎栄松『資本論研究序説』 平 瀬 巳之吉 118

立 命 館 大 学 経 済 学 会

論説

「資本論」初版以後と

その各国における普及状況……………長谷部文雄

「資本論」の周辺……………相澤秀一

現代の恐慌とマルクス恐慌論……………小椋広勝

初期マルクスの経済理論について……………岡崎栄松

——「経済学」哲学手稿」を中心として——

帝国主義論……………小野進

——シュンペーターとレーニン——

研究ノート

法学と経済学との中間領域にある

若干の問題(その一)……………梯明秀

——藤田勇氏の論文「法と経済との一般理論」

についての部分的紹介とそれについての備

忘録として——

資料

駱耕 漢「資本論」第一章第四節の要点と

疑問についての試論……………松野昭二

——「経済研究」誌一九六三年第五期——

書評

手島正毅教授著

「日本国家独占資本主義論」……………豊崎稔

論説

過渡期における国家資本主義の

諸形態……………手島正毅

日本の近代化過程における貿易

構造の変化……………清水貞俊

ルール石炭鉱業の展開とプロイ

セン鉱業法(一)……………川本和良

戦後炭鉱労働運動の展開過程(2)

……………戸木田嘉久

……………

……………

資料

自由民権期の府県会闘争(一)……………後藤靖

……………

……………

書評

後藤靖著『土族反乱の研究』……………遠山茂樹

……………

……………

……………

……………

……………

……………

……………

……………

……………